

【第1号議案】

別冊 1

新発田市地域公共交通計画

進捗管理シート

（令和6年度実績及び今後の取組）

令和7年12月

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート


担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	1	市外を結ぶ公共交通の維持・利便性向上
事 業	1－1	市外を結ぶ公共交通の維持
取組内容	本市と新潟市を結ぶ路線バス「大形線」は、公共交通の軸としての重要な役割を担うバス路線のため、地域間幹線系統確保維持費国庫補助金等を活用しながら維持を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進として、新潟市がバス無料デー等の乗車企画を2回実施した。(R6.11.10、R7.3.20) ・運行事業者が他系統との時間調整を行った。 ・利便性向上のため、運行事業者と協議し「佐々木太子堂前」バス停を追加した。(R7.3.30～) ・令和6年度地域間幹線系統確保維持費国庫補助金の交付を受けたとともに、令和7年度地域間幹線系統確保維持費国庫補助金に係る地域公共交通計画認定申請を行った。 ・新潟県生活交通確保対策協議会について、令和7年1月に地域公共交通確保維持改善事業・事業評価を行った。(書面協議) 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・運転手不足が深刻化している。 ・コロナ禍以降、利用者数は増加傾向にあるが、赤字運行が続いている。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統確保維持費国庫補助金を活用しながら維持を図る。 ・ダイヤ改正時、運行事業者から事前に情報提供を受け、市ホームページの更新を行う。 ・引き続き県生活交通確保対策協議会の地域分科会に参加し、広域路線の維持に向けて近隣市町村と課題を共有する。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	随時実施（県生活交通確保対策協議会と連携した取組） 				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画 進捗管理シート


担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	1	市外を結ぶ公共交通の維持・利便性向上
事 業	1ー2	鉄道との乗継利便性の向上
取組内容	市外への移動ニーズに対応した移動手段を確保するため、鉄道と路線バスとの接続の改善など、利便性向上を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道のダイヤ改正に伴い、全路線のコミュニティバスダイヤを確認し、菅谷・加治コミュニティバスについて時刻表の改正を行った。 ・市街地循環バスについては、鉄道ダイヤの影響が小さかったため令和7年度の新路線運行開始に合わせて見直すこととした。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道のダイヤ改正と同時期に改正するため、引き続き鉄道会社からの早期の情報提供が必要である。 ・周辺地域の路線については、地域住民の移動を最優先事項としているため、JRとの接続を考慮できていない。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き鉄道会社と連携し、接続の改善に努める。 ・GTFSデータを整備し、時刻表検索サイトへの情報提供を円滑に行う。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	随時実施（鉄道ダイヤ改正に合わせたバス時刻見直し） 				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画 進捗管理シート

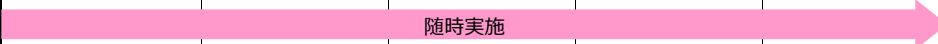
担当課等名	みらい創造課
担当者	高橋 晶子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	1	市外を結ぶ公共交通の維持・利便性向上
事 業	1－3	羽越本線の高速化等に向けた要望活動の実施
取組内容	羽越本線及び白新線の高速化・複線化、羽越新幹線の整備促進に向けて、周辺市町村と連携し、国や鉄道事業者等に対する継続的な要望活動を実施し、新発田駅を拠点とした沿線地域の広域的な交通ネットワーク形成の強化を図り、地域の活性化につなげていきます。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>○羽越本線高速化促進新潟地区同盟会参画事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年10月、羽越本線高速化シンポジウムが秋田県・山形県・新潟県の3地区共同で秋田県由利本荘市で開催され、沿線地域との連携強化を図った。 ・令和6年11月、羽越本線高速化促進大会が東京都千代田区で開催され、白新線・羽越本線の高速化に向け、沿線地域の関係団体とともに関係省庁等へ要望活動を実施した。 <p>○新潟県鉄道整備促進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR東日本に対して、利便性向上等に関する要望活動を実施した(白新線・羽越本線高速化等)。 	

取組における課題等
<p>平成30年4月に新潟駅の新幹線・在来線同一ホーム乗り換え、令和4年6月に新潟駅の在来線全線高架化が実現し、利便性向上による利用圏域の広がりが期待される中、市では白新線の複線化、県では羽越新幹線実現への要望活動を継続している。</p> <p>しかし、要望に対するJR東日本の回答として、実現には乗降客数の増加を前提条件としている中、乗降客数増加に訴求する打開策が見い出せず、進展が見られない状況が続いている。</p>

今後の取組の方向性
<p>・羽越本線高速化促進新潟地区同盟会事務局(新潟市)や新潟県鉄道促進協議会事務局(新潟県)を中心として、沿線地域の関係団体と連携し、啓発活動やJR東日本・関係省庁への要望活動などの働きかけを行う。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画					
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	1	市外を結ぶ公共交通の維持・利便性向上
事 業	1－4	高速バスの維持
取組内容	高速バスの維持に向けて、交通事業者や沿線市町と連携し、高速バス「新潟－山形線」を含めた広域的な交通ネットワーク形成の強化を図り、地域の活性化につなげていきます。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
本事業を含む地域公共交通に関連する連携事業について、令和7年1月に新潟広域都市圏連携事業（地域公共交通関連）として意見交換会を行った。（書面開催）	

取組における課題等
実質的な連携事業はなく、情報共有にとどまっている。

今後の取組の方向性
引き続き、新潟市及び関係市町村と連携し、取組を進めていく。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	→ 随時実施				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート


担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	2	周辺地域から市街地への移動手段の維持・確保
事 業	2-1	市街地にアクセスしやすい移動手段の確保
取組内容	・合併地域を含むすべての周辺地区と新発田市街地を結ぶ路線は、周辺地域に住む市民の移動に重要な役割を担うバス路線のため、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金等を活用しながら維持を図ります。 ・行政と交通事業者が連携して維持・確保を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
・令和6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の交付を受けた。また、令和7年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る地域公共交通計画認定申請を行った。 (R6年度交付金額:市街地循環バス5,994千円、川東コミュニティバス1,768千円) ・令和6年度生活交通確保対策運行費補助金の交付を受けた。また、令和7年度新発田市生活交通確保計画書を新潟県へ提出した。 (令和6年度交付金額:川東コミュニティバス773千円、加治川地域公共交通1,606千円、紫雲寺地域公共交通4,500千円) ・紫雲寺地域公共交通「しうんじ号」の運行開始と、佐々木地区の新規路線運行開始について協議・準備を行った。	

取組における課題等
・運転手不足が深刻化している。 ・各地区におけるコミュニティバスの利用者数は増加傾向にあり、収支率も改善しているが、目標の収支率に達していない路線もある。利用ニーズに応じた運行内容の見直し(車両等の適正化も含む)により、効率的な運行をしていく必要がある。

今後の取組の方向性
・利用ニーズに応じた運行内容の見直しにより、効率的な運行内容の見直し検討を進める。 ・引き続き、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金等を活用する。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	2	周辺地域から市街地への移動手段の維持・確保
事 業	2-2	利用状況や地域状況に応じた適切な運行手法の検討・導入
取組内容	運行の効率化を図りながら移動手段を確保するため、予約があった際に迂回運行する「新発田版デマンド方式（定路線迂回型運行）」での運行を検討し、対象路線を拡大し、公共交通空白地域の解消を目指します。また、予約システムの導入など、さらなる利便性向上を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・紫雲寺地区において、路線バス運行から、バスとワゴン車を用いたハイブリット運行へと切替え、運行の効率化を図った。（令和6年5月21日～）</p> <p>・佐々木地区において、路線バス運行から、ワゴン車両を用いた「新発田版デマンド方式（定路線迂回型運行）」での運行準備を行った。</p> <p>・豊浦地区の1路線及び加治川地区において、全停留所を完全予約制の運行に見直し、乗車時間の短縮を図った。</p> <p>・「バス乗車オンライン予約システム」を導入し、利用者の利便性向上を図った。</p>	

取組における課題等
運転手不足が深刻化している中、増便や運行方法の見直しなど様々な要望が寄せられており、利用ニーズに応じた持続可能な公共交通に見直す必要がある。

今後の取組の方向性
利用ニーズを踏まえたコミュニティバスの利便性向上を図り、次期整備方針を検討する。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計 画	新発田版デマンド方式の拡大		新たな手法の確立	実証運行	本格運行
	紫雲寺地区運行		基準値の設定	基準値の設定	運行見直しの検討
	佐々木地区運行				
	予約システム検討	予約システムの導入			
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	3	市街地内における移動利便性の向上
事 業	3-1	市街地内で移動しやすい環境の維持
取組内容	新発田市街地内を運行する市街地循環(あやめ)バスは、新発田市街地内の移動に重要な役割を担うバス路線のため、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金等を活用しながら維持を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・令和6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の交付を受けた。また、令和7年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る地域公共交通計画認定申請を行った。 (R6年度交付金額：市街地循環バス5,994千円)</p> <p>・令和6年度における評価指標について、年間利用者数81,424人、財政負担額346.3円/年・人、収支率22.9%と令和10年度時点の目標を大きく上回った。</p>	

取組における課題等
<p>・運転手不足が深刻化している。</p> <p>・運行委託費は年々増加しているが、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の補助上限額は補助基準額を下回り、さらに減額傾向にあることから、市の負担額は年々増加している。</p>

今後の取組の方向性
<p>引き続き、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用するとともに、市街地循環バス運行ルートの見直しにより検討を行う新たな路線については、新潟県地域の移動手段確保支援事業費補助金の申請も行う。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	地域内フィーダー系統確保維持計画の策定及び見直し 随時実施（運行事業者との協議）				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	3	市街地内における移動利便性の向上
事 業	3-2	市街地循環(あやめ)バスの運行ルート見直しに向けた検討
取組内容	新発田市街地におけるまちの変化に対応した利便性の高い公共交通を運行するため、住宅地や商業地の開発状況、市民の移動ニーズを踏まえながら、市街地循環(あやめ)バスの運行ルート見直しを検討します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・利便性向上のため、現中央ルートにおいて一部エリア延伸を行い、商業施設付近に新たなバス停を設置した。</p> <p>・市街地内における交通空白地の解消のため、新たな路線の運行協議・準備を行った。</p>	

取組における課題等
<p>新たな路線の運行開始後も、市街地において道幅などの理由からバス車両では運行できないエリアが存在しており、利用ニーズに応じた公共交通に見直す必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>利用ニーズを踏まえたコミュニティバスの利便性向上を図り、次期整備方針を検討する。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	見直し検討	実証運行	本格運行		
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	4	地域で地域の公共交通を守るしくみの維持
事 業	4-1	数値目標の達成状況に応じて増減便する仕組みの導入検討
取組内容	「地域で地域の公共交通を守る」という意識を醸成するため、各路線に利用者数の数値目標を設定し、達成状況に応じて増減便を図る仕組み（バストリガー方式）を導入します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・豊浦地区において、新たに利用者目標人数を設定した。</p> <p>・松浦地区において、令和4年度と令和5年度において目標を達成していることから、増便の検討と目標値の再設定を行った。</p>	

取組における課題等
<p>運行開始から3年目の利用者を基準に目標を設定することとしているが、利用が定着していない路線もあり、目標の設定が難しい。</p>

今後の取組の方向性
<p>・「地域で地域の公共交通を守る」という意識の醸成を図るため、運行開始から3年経過した路線について順次年間利用者数の目標値を設定し、地域と共有・管理していく。</p> <p>・各路線の目標値達成状況に応じて、増減便を地域と検討する。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	→ 随時導入				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	4	地域で地域の公共交通を守るしくみの維持
事 業	4-2	周辺地区における公共交通の現状把握及び方向性を検討する部会の継続実施
取組内容	市委託路線が運行されている地域において、区長会等で実施している公共交通に関する部会を引き続き実施するとともに、路線を見直す地域においては検討会を立ち上げ、各地域で公共交通の現状把握及び方向性を検討しながら公共交通を守る意識を高める機会を設けます。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・川東地区において、川東コミュニティバス検討部会を2回実施した。 ・松浦地区の区長会に出席し、利用状況等の説明を行った。 ・豊浦地区において、検討委員会を実施した。 ・五十公野地区において、検討委員会を実施した。 ・米倉・赤谷地区において、検討委員会を実施した。 ・加治川地区において、検討会議を2回実施した。 ・紫雲寺地区の区長会に出席し、利用状況等の説明を行った。 ・佐々木地区の運行開始に向けて、検討会を立ち上げ、4回の会議実施および検討会議だよりを全戸配布した。 	

取組における課題等
各自治会等の代表者に実際の利用者の意見を聴取してもらう必要がある。

今後の取組の方向性
市委託路線が運行されている地域において、区長会等で実施している公共交通に関する部会を引き続き実施し、地域とともに方向性について検討する。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	佐々木地区立ち上げ → 随時実施（各地域、年2回程度） →				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	高齢福祉課、教育総務課

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-1	公共交通の乗り方・運行内容の周知
取組内容	高齢者に対する乗り方教室・運行内容の周知は引き続き継続するとともに、高校進学をきっかけに公共交通の利用可能性がある中学生を対象としたバスの乗り方及び運行内容の周知に取り組みます。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・五十公野～赤谷地区において、乗り方教室を1回実施し計8名が参加した。 ・加治川地区において、乗り方教室を4回実施し計34名が参加した。 ・紫雲寺地区において、乗り方教室を1回実施し計8名が参加した。 ・コミュニティバスを利用した通学促進のため、各地区コミュニティバス運行エリアの中学3年生に向けた1回体験券付きのチラシを配布した。 ・加治川地区と紫雲寺地区において、1回体験券付きのチラシを配布し、利用開始または利用が定着していない路線に対し、利用促進を図った。 ・知名度向上のため、FMLしばたでのバス乗車PR放送に出演した。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・乗り方教室後の利用が定着しない路線もある。 ・まだ車を運転している高齢者にとって公共交通の運行内容周知が響かない。 ・中学3年生および地域に向けたチラシを配布しても、利用が定着していない路線の体験券利用率は低い。 ・高齢者に運行内容の周知を行う場が少ない。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・関係課と連携し、コミュニティバス運行内容や利用促進の取組を周知する場を設ける。 ・各自治会の公会堂等に利用促進ポスターを掲示し、コミュニティバスについて認知してもらう。 ・通学におけるコミュニティバス利用促進については、中学3年生に高校のオープンスクール時期にチラシを配布する等、高校進学の手続きを始めるタイミングに合わせるなどの工夫を行う。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	随時実施				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート


担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-2	公共交通に関心をもってもらうイベントの実施
取組内容	交通事業者と連携して、市民が公共交通に関心を持ってもらうためのイベントを実施します。また、公共交通の現状を理解してもらう機会を創出します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>サマーフェスティバルでコミュニティバス車両を展示し、子ども向けに運転席乗車体験を行うなど家族で公共交通がより身近に感じられるような取組を実施した。(R6.7.27)</p>	

取組における課題等
<p>イベントでは子どもをメインに多くの来場者に乗車体験利用を通じてバスPRの機会にはなっているが、実際の利用には直接的に結びついていない。</p>

今後の取組の方向性
<p>各種イベントなどでのPR活動においては、実際の利用につながるような情報提供や、将来の利用を見据えたPRや家族での利用を意識してもらえるような企画内容の工夫を行う。その他公共交通に特化したイベントの企画・立案を検討する。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	随時実施 				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	地域安全課、公共交通推進室
担当者	樋口 奈那、新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-3	高齢者の公共交通利用促進
取組内容	自動車の運転に不安のある高齢者等に対し、自主的な免許返納を促すため、運転免許返納支援事業を継続するほか、コミュニティバス等の運賃割引制度の導入などを検討し、高齢者等の公共交通利用を促進します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。	
平成25年4月1日以降に年齢や病気により、自動車等の運転に不安を感じ運転免許等を返納した方を対象に、下記の①～⑤のいずれかを支援した。		
①コミュニティバス回数利用券	59件	
②路線バス回数券	2件	
③いきいきスタンプお買物券	188件	
④共通タクシー券	132件	
⑤運転経歴証明書発行手数料 及び写真代相当額の支援金	0件	計 381件
感謝状 ※希望者のみ	143件	

取組における課題等
令和6年度の申請件数は381件であり、平成25年の事業開始以降から最も多い件数となった。申請時に実施しているアンケートにおいても、「運転に自信がなくなったため」や「家族から勧められたため」という理由で返納している方が大半であり、自身の身体能力や判断力の低下を感じて返納していることがわかる。このような結果からも、自身の能力の低下を知ることが免許返納について考えるきっかけのひとつになると考えられるため、引き続き高齢者交通安全教室等を通して、身体能力等の低下を認知してもらうとともに支援の周知を行う。

今後の取組の方向性
年齢や病気などで運転に不安を感じている方の免許を返納するきっかけづくりとして、引き続き支援を行い、交通事故防止及び減少を図る。引き続き、新発田警察署や免許センターと連携した制度周知や高齢者交通安全教室、広報しばた等での周知を行う。 コミュニティバスの高齢者に対する運賃割引制度についても引き続き検討を行う。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	継続実施		新制度検討	新制度導入	
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-4	待合環境の整備
取組内容	自治会等で行うバス待合所の設置もしくは修繕事業に対して、費用の一部を補助する制度を継続するほか、より効果的に整備を進めるための新たな制度を検討し、整備を推進します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>令和6年度から運行を開始したしうんじ号停留所の待合所新設のため、バス待合所等設置補助金を2件分交付した。</p>	

取組における課題等
<p>市街地の停留所は待合所を整備できるスペースの確保が難しい。</p>

今後の取組の方向性
<p>市街地を運行するバスの停留所においてベンチ設置の要望があるため、アーケードが設置されている箇所の停留所についてベンチを置く。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	継続実施		新制度検討	新制度導入	
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	地域安全課、公共交通推進室
担当者	樋口 奈那、新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-5	駐輪場の維持・整備
取組内容	交通拠点となる駅やバス停までの移動手段として自転車の利用もあることから、利用しやすい駐輪場を維持していきます。また、自治会等で行う自転車等駐車場設置事業に対して、費用の一部を補助する制度を継続するほか、より効果的に整備を進めるための新たな制度を検討し、整備を推進します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none">・市内駐輪場の自転車整理・各駐輪場における放置自転車の撤去・返還(年2回実施)・市内高等学校へ駐輪場利用に関する呼びかけ・新発田駅前駐輪場2段式サイクルラック改修工事、新発田駅東口駐輪場屋根修繕	

取組における課題等
<p>新発田駅前駐輪場の2段式サイクルラック改修工事については、上段の経年劣化が著しく、利用者の安全を確保することが難しくなってきたことや使用率が低かったことから撤去を行ったが、令和7年7月現在、早朝や夜間において、一時的に駐輪スペースが不足している状況であったため、駐輪場内の空きスペースに駐輪エリアを設けたほか、青空駐輪場を新規で設置した。</p> <p>また、サイクルラックの老朽化も懸念されるため、駐輪場設備の入替え等を検討する必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none">・各駐輪場施設の老朽化による点検、施設の修繕・補修等の実施。・市内高等学校へ駐輪場利用及びマナー遵守に関する呼びかけを実施。・年2回の放置自転車撤去・返還業務を新発田駅前駐輪場のみ年3回に変更し、駐輪スペースの確保及び適正利用を図る。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	随時実施		新制度検討	新制度導入	
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	地域整備課、公共交通推進室
担当者	川崎 裕也、新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-6	駅前広場の適正な利用とキスアンドライドの推進
取組内容	市内の一部駅では駅前広場を整備しており、長時間駐車に対する注意喚起を行うなど適正な利用を呼びかけながら、キスアンドライドによる公共交通の利用を促します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
西新発田駅の北側駅前広場における乗降客送迎車の混雑解消のため、一部停車帯を降車専用に変更し、広報誌にて周辺の駐車場を利用するなど、ロータリー内に駐停車しないよう協力を呼びかけたほか、看板や路面標示を整備し、キスアンドライドの推進を図った。	

取組における課題等
西新発田駅の南口ロータリーに比べ、北側駅前広場における乗降客送迎車の混雑が著しい。

今後の取組の方向性
キスアンドライドによる公共交通の利用を促進させるため、西新発田駅の南口ロータリーの積極的な利用を促す。 引き続き広報誌を用いた呼びかけを行う。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	継続実施				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	環境衛生課
担当者	斎藤 正太郎
連携課等	全課等

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-7	ノーマイカーデーの継続実施
取組内容	ノーマイカーデーを通して公共交通利用のきっかけを作り、自家用車から公共交通への利用を促すとともに、環境負荷の低減につなげます。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>通勤時におけるマイカー利用の自粛等（公共交通機関の利用、徒歩、乗り合いなど）を促すノーマイカーデーを毎月2回（第1、第3金曜日）実施することにより、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出抑制を促し、地球温暖化対策の推進を図った。</p> <p>【実施率（平均）の推移】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度…通勤距離4km以上：6.0％ 4km未満：29.1％ 全体：17.0％・令和5年度…通勤距離4km以上：5.5％ 4km未満：30.2％ 全体：16.8％・令和4年度…通勤距離4km以上：5.4％ 4km未満：25.4％ 全体：16.8％	

取組における課題等
<p>通勤距離4km以上の実施率が低い傾向にある。</p> <p>通勤距離4km未満と比べ、通勤距離4km以上の対象者においてはマイカー利用の代替として公共交通機関の利用が必要な職員が多いと見込まれることから、普段からバスや電車を利用しない職員にとって通勤手段の変化に対するハードルが高いことが考えられる。</p>

今後の取組の方向性
<p>本取組については、「新発田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」（3－2交通手段の脱炭素化の推進）に基づき、自動車の利用について、市の職員自らがライフスタイルを見直し、行動することで環境負荷を低減し、地球温暖化対策の推進を目的に実施しており、公共交通機関の利用を促す周知・啓発を含め、今後も継続して取組を行う。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	継続実施				
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	3	地域で支える公共交通の構築
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	5	市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進
事 業	5-8	キャッシュレス決済の利便性向上
取組内容	コミュニティバス等に導入しているキャッシュレス決済について、新たなシステムの導入も視野に入れながら検討し、利便性向上を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に新たに運行を開始した、しゅんじ号にもシステムを拡大した。 ・新たなシステム導入検討のため、他市に視察を行った。 ・一部窓口においてPayPay支払いによるチャージ方法を追加した。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全体に対し、キャッシュレス決済の利用者が少ない。 【バス総収入に占めるキャッシュレス決済システムの割合】 R3:1.6%、R4:2.0%、R5:3.3%、R6:1.6% ・通信状況により時折決済ができない場合があり、安定性に欠ける面がある。 ・チャージ方法が現金またはPayPay(一部窓口のみの取扱い)のみ、かつ、窓口が限定されているため利便性が悪い。 ・利便性向上のため、クレジットカードやQRコード決済についても検討する必要がある。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・システムの安定性を高め、利便性を向上させるため、現行のキャッシュレス決済システムを見直し、新たなキャッシュレス決済システムの導入を含めて検討する。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	見直し検討	次期システムの導入			
見直し後					

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	6	わかりやすい情報提供
事 業	6-1	既存システムを活用したバス位置情報の提供路線拡大
取組内容	バス位置情報を提供する既存システム「バスどこ？」について、情報提供対象路線を拡大し、利便性向上を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・紫雲寺地区に「バスどこ？」システムを拡大した。</p> <p>・佐々木地区公共交通、市街地循環バス新路線に「バスどこ？」システムの拡充に向け、準備を進めた。</p>	

取組における課題等
<p>・運行時の振動や運行エリアの通信状況によって機器に不具合が生じることがあり、機器の改良等が必要となっている。</p> <p>・遅延や回送等の車両の運行状況を表示していないため、分かりにくい。</p> <p>・対象路線の拡大や新規機能の付加に当たっては、期待される効果や費用、財政支援制度の活用を検討が必要である。</p>

今後の取組の方向性
<p>「バスどこ？」システムの機能改善や更新も含めて検討する。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	対象路線の拡大	新システム検討	新システム導入		

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	6	わかりやすい情報提供
事 業	6-2	GTFS データを活用した情報発信
取組内容	運行ダイヤ・ルート、運賃等の情報を持つGTFSデータを整備するとともに、経路検索をGoogleマップにおいて提供できるシステムを導入し、利便性向上を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・新潟県が開催した操作研修会に参加し、GTFSの整備方法及びGoogleマップへの提供方法について確認した。</p> <p>・新潟県の支援事業により、ナビタイムジャパンが提供するGTFSクラウドにおいて市街地循環バス、川東コミュニティバス、菅谷・加治コミュニティバスのデータを整備した。</p>	

取組における課題等
<p>・一部路線のGTFSデータ整備が完了していない。</p> <p>・Googleマップへの反映が完了していない。</p>

今後の取組の方向性
<p>GTFSデータを整備可能な路線について整備し、Googleマップへ反映する。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	GTFSの整備	Googleマップ反映	随時更新		

新発田市地域公共交通計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	高齢福祉課

計画の位置付け		
目 標	1	周辺地域の公共交通の維持・確保
	2	まちなか移動を支える公共交通の充実
	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	6	わかりやすい情報提供
事 業	6-3	「わたしの時刻表」の作成による乗り継ぎ情報の提供
取組内容	個別の移動状況に合わせて公共交通の運行ダイヤを整理した「わたしの時刻表」の作成を継続し、市民1人1人のお出かけに合わせた乗り継ぎ情報等をわかりやすく提供します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・令和6年度に運行を開始した「しうんじ号」の乗り方教室参加者に配布した。 ・2名の方から依頼があり、わたしの時刻表を郵送した。</p>	

取組における課題等
<p>わたしの時刻表について、広く周知する必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・乗り方教室を開催した際に作成案内を行う。 ・各自入力できるようなフォーマットを作成し、市HP等で公開する。 ・関係課と連携し、わたしの時刻表の作成取組を周知する場を設ける。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	継続実施	提供方法の検討	新システム検討	新システム導入	

新発田市地域公共交通計画 進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	7	輸送資源の総動員及び新技術による利便性向上・効率化
事 業	7-1	輸送資源の総動員と適切な使い分けによる運行の効率化
取組内容	バスやタクシーなどの輸送資源を総動員するとともに、利用状況や地域の状況を踏まえ、輸送資源を適切に使い分けながら運行の効率化を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・紫雲寺地区において、路線バス運行からバスとワゴン車両を用いたハイブリット運行へと切替えた。</p> <p>・佐々木地区において、路線バス運行からワゴン車両を用いた「新発田版デマンド方式(定路線迂回型運行)」での運行準備を行った。</p> <p>・月岡地区から日本版ライドシェアの要望があり、国に申出書を提出した。</p>	

取組における課題等
<p>・運転手不足が深刻化している。</p> <p>・ワゴン車両で運行しているが月に1回程度定員オーバーで応援便対応が必要な路線、菅谷・加治コミュニティバスや川東コミュニティバスなど従来からバス車両で運行しているが時間帯によって空便の路線が存在する。</p>

今後の取組の方向性
<p>利用ニーズに応じた運行内容の見直しにより、持続的な運行内容の見直し検討を進める。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	輸送資源の洗い出し	先進地調査	検討・協議		実証実験
見直し後					

新発田市地域公共交通計画 進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	教育総務課

計画の位置付け		
目 標	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	7	輸送資源の総動員及び新技術による利便性向上・効率化
事 業	7-2	通学に対応したコミュニティバスの運行継続
取組内容	周辺地域からの通学ニーズに対応するため、通学時間を考慮した運行を引き続き行い、輸送資源を総動員した運行の効率化を図ります。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・川東コミュニティバス及び菅谷・加治コミュニティバスについて、市内各高校の最寄りバス停まで運行する「高校通学便」の運行を引き続き行った。また、小・中学校の通学における通学支援も行った。</p> <p>・阿賀町、聖籠町からの通学で当市コミュニティバスに乘継げるよう、関係市町村及び運行事業者と調整を行った。</p> <p>・五十公野～赤谷地区公共交通において、高校の部活帰りに利用できる便の実証運行を実施した。</p> <p>・令和6年度に運行を開始した紫雲寺地域公共交通において、通学に対応したダイヤでの運行を行った。また、当地区の冬期における中学校通学支援対応を行った。</p> <p>・佐々木地区において、路線バス運行からコミュニティバス運行に切り替える準備の段階で、通学に対応したダイヤの検討を行った。</p>	

取組における課題等
<p>・五十公野～赤谷地区において、高校の部活帰りに利用できる便の実証運行を行ったが、利用者が少なく本格運行に至らなかった。</p> <p>・小・中学校の通学支援も兼ねている路線では、柔軟な見直しが難しい。</p> <p>・高校生の減少に伴い、コミュニティバスの利用も減少傾向にあることから、利用ニーズに応じた運行内容の見直し(車両等の適正化も含む)により、効率的な運行をしていく必要がある。</p> <p>・JRとの乗継については、市街地にある学校への通学を優先しており時間的な考慮が難しい。</p>

今後の取組の方向性
<p>高校生の移動ニーズに基づき、市内高校への登下校に利用しやすく、効率的な運行内容の見直し検討を進める。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	新発田版デマンド方式の拡大		新たな手法の確立	実証運行	本格運行
見直し後					

新発田市地域公共交通計画 進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	7	輸送資源の総動員及び新技術による利便性向上・効率化
事 業	7-3	新技術の導入可能性の検討
取組内容	公共交通を取り巻く社会状況を踏まえながら、本市におけるAI やMaaS などの新技術の導入可能性を検討します。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
<p>・AI配車システム、WEB予約システム、バスロケーションシステム、キャッシュレス決済システムについて、他市へ視察に行き当市の導入の必要性を検討した。</p>	

取組における課題等
<p>・現在の当市のコミュニティバスでは、AI配車等を必要とする運行をしていない一方で、バスロケーションシステムやキャッシュレス決済システムは利便性に欠ける部分がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>引き続き、運行手法の変化に合わせて利便性を高める新技術を検討する。 すでに導入・運用を開始しているバスロケーションシステムやキャッシュレス決済システム等については、改修を行う場合に多額の費用を要するため、活用できる補助金を検討する。</p>

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	先進地調査・検討		導入技術の選定	運用方法の検討	実証実験
見直し後					

新発田市地域公共交通計画 進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	新保 恭子
連携課等	

計画の位置付け		
目 標	4	持続可能な公共交通網の構築
施 策	7	輸送資源の総動員及び新技術による利便性向上・効率化
事 業	7-4	EV バス等環境に配慮した車両の導入
取組内容	EV バス等の環境に配慮した車両の導入を、国や県と連携しながら促進していきます。	

令和6年度取組実績	※具体的に記載してください。
EVバスの導入に向け、導入費・維持費を試算し検討を行った。	

取組における課題等
・暖房をフル稼働した雪道での運行実績がないため、今後他市町村の実績を見て検討を行う。 ・ディーゼルバスと比較し、費用が高く、EVバス導入のメリットは環境負荷の低減のみである。

今後の取組の方向性
引き続き、EVバス等の導入に向け検討を行う。

実施スケジュール					
年度	R06	R07	R08	R09	R10
計画	導入検討	実証運行	本格運行		
見直し後					